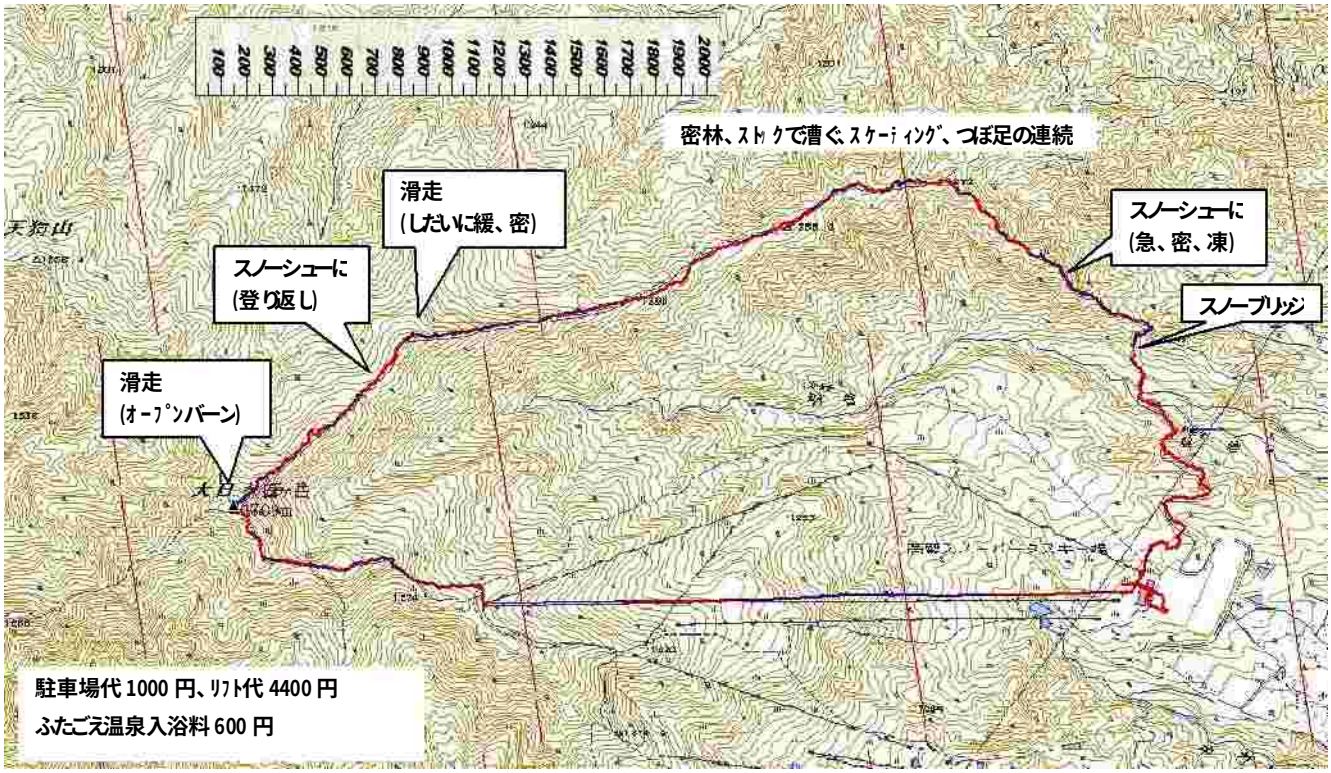
山 行 報 告 書

作成 :2009 年 12 月 23 日
愛知岳連　岡崎山岳会

山名[山域]	大日ヶ岳山スキー	目的[方法]	山スキー・ボード
期間	2013 年 1月 6日	形態	日帰り往復山スキー
参加人数	4人（スキー3人、ボード1人）		

行動記録： 1/6(日) 曇　岡崎市民病院PKG 5:00）＝0:10＝岡崎IC 5:10）＝1:00＝美濃関JCT 6:10）＝0:40＝ひるがの SA ｽﾏｰﾄ 6:50,7:10）=0:20＝高鷲ｽﾉｰﾊﾟｰｸ PKG 7:30,8:00）++0:30++ｺﾞﾝﾄﾞﾗ頂上駅 8:30,8:40）--1:15--大日岳頂上 9:45,10:05 滑走）--2:00--ﾋﾟｰｸ 1273m 分岐 12:05）--1:25--ﾋﾟｰｸ 1049m 13:30,13:35）--0:10--叺谷の橋を渡り林道へ 13 :45）--1:00--高鷲ｽﾉｰﾊﾟｰｸ PKG 14:45,16:10）＝0:20＝ふたごえ温泉 15:30,16:30）＝0:10＝高鷲 IC 16:40）＝2:10＝岡崎 IC 18:50）＝0:10＝岡崎市民病院 PKG 19:00）

概念図



日誌（ボーダー）：
曇りの予報だったが、晴れており、ひるがのSA から山の全容が見え、滑走する尾根を探す。
高鷲インフォーメーションで計画書を提出、リフト券購入しゴンドラ頂上へ。山頂カフェ[ポポロ]の建物西側から出発。尾根をトラバース気味に進み尾根にとりつく。頂上までは一本道で踏跡もあり締め固められておりスノーシューでも歩きやすい。
他の入山者はスキーヤー20 人、ボーダー4人程度で、ほとんどが頂上から北側へ滑走し、ハイクで頂上へ戻り、叺谷の南側を滑走し、ゲレンデ中腹へハイク戻るとのことだった。
我々は頂上から蛭が野へ向かって尾根を滑るも一瞬で平坦になり、登り返しを避けトラバースしながら滑るも、結局登り返す。
ピーク1580m から再び滑走、やや密林の緩斜面が長く続き気持ちがよい。1273m の分岐を 4 人で GPS で確認しながら目指す。しだいに密林になり、ストックで漕いだり、片足をはずしスケーティングの繰り返し。
ピーク 1273m の分岐手前あたりから、やや急斜面と緩い登り返しの繰り返しで、木の葉落しや直滑降で滑ったりつぼ足で歩いたりを繰り返したが、密林の急斜面で凍っている部分が出てきたので以降はスノーシューで下った。
ピーク 1049mから細い樹木を掻き分けて針葉樹林帯の沢地形をトラバース気味に下った、（細い樹木さえ抜ければボードでも滑れそう）。沢の出口でスノーブリッジを慎重に渡り叺谷の橋に到着。林道の緩い登りを進み高鷲スノーパークの車庫脇からゲレンデ下部へ合流、下山した。

感想（ボーダー）：
スキーヤー達は山スキーの醍醐味を楽しんでいたが、地図から予想はしていたがボードの私はあまり滑走できずなかなか苦行だった。緩斜面、登り返し、密林の3点が揃うと、ショートターンの技術と素早い装着能力が必要だ。今回は時間にゆとりのある山行だったのでよかったが、山スキーに遅れをとり迷惑をかけてしまう。
次回は頂上より裏山を滑走し、ハイクで頂上へ戻り、叺谷の南側を滑走し、ゲレンデ中腹に戻る計画を実行したい。